

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース48号

2013/05/13 発行

株式会社 立花商店

生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本程度ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：今週相場は徐々に下落。レンジとしては、前週とほぼ変わらず。

①週最高：LDN 市場£1,570 / NY 市場\$2,402 (5/7、5/6)	先週比 LDN+£0/NY - \$14
②週最低：LDN 市場£1,527 / NY 市場\$2,300 (4月29日)	先週比 LDN+£1/NY - \$35
週内差額 (①-②)：LDN 市場£43 (傾向↓) / NY 市場\$102 (傾向↓)	

【5月6日(月)】NY、小反落＝ロンドン＝休場

ニューヨーク市場のココア先物は、小反落。一時、先週付けたほぼ5カ月ぶりの高値付近まで上昇した後、値固めした。ロンドン市場はこの日、祝日で休場だったため、ニューヨーク市場は開始を遅らせ、出来高は比較的少なかった。

ニューヨーク市場の7月きりは、14ドル(0.6%)安の**2402ドル**で終了。前営業日に付けた昨年12月以来となる2437ドルまで一時上昇した後、値固めに入った。

シティーグループ(シカゴ)の先物専門家、スターリング・スミス氏は「われわれは価格を調整している。相場にはたいした上値抵抗線がなく、買われ過ぎだ。投機筋の関心が非常に強い」と話した。

7月きりは、3月上旬に付けた2034ドルの安値から18%超上昇している。出来高は30日平均となる約2万5000枚に比べ、約1万1000枚と薄かった。

【5月7日(火)】NY市場、続落＝ロンドン＝上昇

ニューヨーク市場のココア先物は続落。7月きりは6ドル(0.2%)安の2396ドルで取引を終えた。

休場明けのロンドン市場は上昇。7月きりは3ポンド(0.2%)高の**1570ポンド**で引けた。

ただ、西アフリカ諸国の良好なミッドクroppと産地筋の売りを受け、上値は限定的とみられている。ロンドンのブローカーは「産地筋のヘッジ売りが出ているようだ。ガーナとコートジボワールのように思われる」と述べた。

【5月8日(水)】両市場ともに小幅安＝値固め局面に

これまでの上昇局面の後を受けた値固め局面となり、ニューヨークとロンドンの両市場ともに小幅安と

なった。

ロンドン市場の7月きりは反落、12ポンド（0.8%）安の1558ポンドで終了。ニューヨーク市場の7月きりは続落し、5ドル（0.2%）安の2391ドルで引けた。ディーラーらは、投機筋がニューヨークとロンドンの両市場で大量のロングポジションを積み上げており、相場は引き続き下向きの調整局面となりやすいとみている。

【5月9日（木）】両市場とも続落

過去数カ月間の上昇局面から値固め局面となり、両市場とも続落。

ニューヨーク市場の7月きりは2%近く下げ、100日間移動平均を割り込んだ。終値は42ドル（1.8%）安の2349ドル。

ロンドン市場の7月きりは、16ポンド（1%）安の1542ポンドで引けた。キリスト昇天祭の祝日で多くのトレーダーが不在となり、取引は薄かった。

【5月10日（金）】ニューヨークは5日続落＝ロンドンも3日続落

ニューヨーク市場のココア先物は5日続落。前日は200日移動平均を割り込み、4月18日以来の安値を付けた。

ポンド安・ドル高も、ロンドン市場での買いとニューヨーク市場での売りを誘った。

ニューヨーク市場の7月きりは、49ドル（2%）安の2300ドルと、4月15日以来の安値で終了した。

ロンドン市場の7月きりは3日続落し、15ポンド（1%）安の1527ポンドで引けた。

2、米カーギル、インドネシアでカカオ豆加工施設の建設開始＝総額1億ドル(5/7)

米穀物商社大手カーギルは7日、インドネシアでカカオ豆加工施設（総額1億ドル規模）の建設を開始したことを明らかにした。アジアでのチョコレートや他のカカオ製品の需要拡大に対応する。

同社カカオ・チョコレート部門のジョス・デ・ルア氏は声明で「(アジア) 地域の顧客の間で、カカオ製品に対する需要が急激に伸びている」と述べた。工場の建設によりインドネシアで200人前後の雇用が創出されるほか、クアラルンプールと北京の研究センターでも追加雇用が見込まれている。同社は、西欧、ベトナム、カメルーン、ガーナ、コートジボワール、ブラジル、米国に同様の施設を保有している。

この加工施設の稼働時期は、2014年半ばの見通し。カーギルのアジア顧客向け出荷用に年間約7万トンのカカオ豆を加工する。アジアでは、収入増加で、高級食料品の需要が拡大している。カーギルによると、出荷される製品には、カカオ・リカーやバターなどが含まれている。

建設中の同工場は、インドネシア東ジャワ州グレスシにある。

カーギルは、1995年からインドネシア産カカオ豆を調達しているが、1300以上のインドネシアの農家を対象に技術訓練して、生産性と豆の品質向上を目指す。同社は現在、インドネシアで二つのカカオ豆購入施設を運営しているが、グレスシの加工工場が稼働すれば、カーギルが現地で調達する購入量は倍増する見通し。カーギルのカカオ・チョコレート事業担当幹部は「増加する顧客の需要を満たし、

今後のカカオ豆生産を支援するには、自社運営の事業とサプライチェーンに投資する必要がある」と説明した。

3、コートジのカカオ生産地に降雨があるも、生産者は不作を懸念(5/8)

- ・ 4月から9月までのミッドクロップの収穫が着荷開始
- ・ 生産者の中では、7月には収穫数量が減ると言われている。

先週、コートジの主要なカカオの生育地域に最適な雨と豊富な日射があり、ミッドクロップのカカオ豆の品質の向上に寄与すると期待されているが、いくつかの生産地域では生産者達は通常のシーズンよりミッドクロップの収穫量は少なくなると予測している。

世界最大のカカオ生産国であるコートジのミッドクロップ（4月～9月まで収穫される）は、今年のもっとも暑く、乾燥した気候が、沢山のカカオの花と、結実した小さなカカオポッドを枯らした後に、徐々にスタートした。

しかし、収穫が開始してみると、着荷数量は順調で、多くのトレーダーや輸出業者は豊作のミッドクロップを予測している。

輸出業者は月曜日、4月29日から5月5日の1週間でアビジャンとサンペドロ港の2つの主要港に約23,000トンのカカオ豆が着荷したと見積もっており、これは前年の同期間の14,000トンと比較して大きく増加している。

コートジ全体のカカオの収穫数量1/4を占める中央-西部地域のDaloa（ダロア）では、カカオ生産者は2週間全く降雨がなかった後、今週2回良い雨が降ったと報告した。

『とても良かった。長い間、今週のような雨を待っていた。もし来週も雨が降ってくれば、カカオ豆の品質は向上するだろう』Daloa（ダロア）のカカオ生産者は話す。



『カカオは収穫されている。ただ、今現在カカオの木にある花と結実したカカオの小さなポッドの数はとてもとても少なく、これらが収穫時期を迎える 7 月には収穫数量は大きく落ち込むだろう』彼は続けた。

同じような生育状況が東部地域の Abengourou (アベングル) されており、先週の降雨量 22mm に対して、今週は 28mm の降雨があったと発表されている。

『カカオは確かにある。ただし、去年の同じ時期と比較してみると去年の方が多かった。このあたりではミッドクロップは不作になるだろう』 Abengourou (アベングル) 郊外のカカオ生産者は話す。

『新しいシーズンのメインクロップは、今カカオの葉が緑に変わってきているので、早く開始するだろう。カカオの葉が緑になってくることは、6 月の新しい開化の準備をしているという証拠であり、この花は 9 月に収穫されるカカオの実 (カカオポッド) をつけるからだ』彼は説明した。

西部地域の Soubre (ソブレ) では先週 45mm の降雨にたして、今週は 17mm の降雨があった。

『カカオの収穫数量は増加している。太陽が出ていて、カカオ豆の乾燥がしやすく嬉しい状況だ』 Soubre (ソブレ) の生産者は話す。

『バイヤーからのカカオ豆のサイズに関してのクレームも少なくなっている』彼は付け加えた。

西部地域の Duekoue (ドゥエクエ) の生産者は 3 回の降雨が、晴れて良い日射に混ざってあったことを報告した。

『この辺りでは、雨も日照りも良い感じだ。ミッドクロップが途中で急激に落ち込むことはここではなさそうだ。7 月に収穫数量は落ちるとは思うが、大きな中断になるものではないと思う』生産者は意見を述べた。

沿岸地区の San Pedro (サンペドロ) では生産者は雨の不足を嘆いた。

『この周辺では全く雨が降っていないし、強い日光が私達を殺そうとしている』生産者は話す。

『私達はもう幻想的な期待は持っていない。ミッドクロップはほとんどカカオはないだろう。今はもうただただ、極端に熱くなり熱が私達の大事なカカオの木を殺されることがないように祈すしかないよ』

4、コートジのカカオ豆着荷量、5月5日時点で110万2,000トン、輸出業者推計(5/6)

複数の輸出業者によると、昨年10月に始まった今年度のコートジボワールの主要2港(アビジャン港、サンペドロ港)のカカオ豆着荷量は、5月5日時点で推計110万2000トン前後だった。前年同期は110万3000トン。また、4月29日~5月5日の1週間の着荷量は推計2万3000トン前後と、前年同期の1万4000トンを上回った。

5、NYココア市場の建玉が投機筋の買いポジション積み上げで過去最大に(5/8)

NYのココア先物市場では投機筋が過去五年で最大規模の買いポジションの建玉 221,328 ロット (=カカオ豆数量換算で 2,213,280 トン) を積み上げている。

投機筋は現在、チャートを根拠とする買いシグナルとカカオの需要を復活させる世界の経済環境が今後

改善するという期待感によってカカオの先物を買うことに熱心であり、先物市場での建玉を大きく積み上げているとディーラーは説明している。

建玉の急速な上昇は先物市場の基準となっている未決済の契約の数量の数字に影響を与えるものであるが、この建玉の上昇はここ最近 3 月から 19%もココア価格が上昇した背景には、弱気な実需筋が売りポジションを手じまいしたことによる買いよりも、むしろ強気な投機筋が新たにロングポジションをとったことによって形成されたことを示唆している。

この状況において唯一の問題は、多くの市場の専門家たちは価格が上昇するムードになる理由がほとんど見当たらず、市場は直ぐに低く調整されるだろうと予測している点である。世界最大のカカオ生産国であるコートジワールのカカオ豆の供給は安定しており、天候リスクも弱まってきている。そして世界第二位のガーナも定期的に市場で販売しているとみられている。

ある専門家は、カカオ先物は単に 4 月を通じて他のコモディティ商品が下落傾向で購入する魅力にかけていたことから消去法的に注目が集まっただけであると言っている。

『現在、得に説得力のある強気材料を見つけることは出来ない、しかしカカオは 1 つのシナリオがあり、一方で、最近他の多くのコモディティでは考えうる強気なストーリーも見当たらないのも現状だ』カカオトレーダーであり、磨砕業者でもある Transmer Group の代表である Peter G. Johnson は言う。

『今回の様な急速な建玉の積み上がりは根本的に強気市場とファンダメンタルズの突然の変化を示唆するが、今回はそのような状況は見られない』Johnson 氏は続ける。

そして、この状況は“市場価格の調整リスク”が高まっていることを示していると語っている。

ICE (NY) ココア先物市場の建玉は 5 月 6 日に 221,328 ロットに上昇し、現在の取引価格をベースに算出すると市場規模は 530 百万米ドル (=530 億円) で過去最高である。この建玉高は 1 か月前の 12% 増加であり、1 年前の 24% 増加となっている。

この建玉の増加は昨年 12 月に価格が高値を付けた後に下落し始めた頃より続いて積み重なってきた。

建玉の急増の多くは、ヘッジファンドやその他の機関投機筋の活動が大きく起因していることはほとんど疑う余地がない。(チョコレートメーカーや磨砕業者のヘッジやトレーダーの影響は小さい)

一方、トレーダーや磨砕業者等の実需者の取引は、この 6 週間“売りのポジション”を増やしてきており、71,000 ロット以上で 12 月依頼の最大規模になっていると米国先物商品協会の統計が示している。

この統計はまた、非実需者である投機筋は“買いの先物及び、オプションのポジション”を一気に積み増しており、4 月 30 日で終わる 1 週間の間に近年 5 年間で最大量となる 32,000 ロットを買った。

『実需者筋は、投機筋に対してポジションを“いとも簡単に沢山売ってきた”投機筋は欧州経済が持ち直しココアバターの需要を刺激するだろうと賭けているようだ』Hackett Financial Advisors の代表である Shawn Hackett 氏は説明する。

『私は、投機筋は欧州経済が改善するという情緒的な気運がこれからこれまでうっ積していたココアバターの需要を解放するだろうと予測しているのだろうと思う』

『投機筋からの大きく積まれた買いポジション、実需筋からの大きく積まれた売りポジションは、このような極端な建玉の状況は通常 40-45 日以上は続かない為、7 月中旬には危険な相場下落を生じさせる可能性がある』彼は続ける。

『投機筋の動きは穏やかではない、私はカカオの相場価格にも急激な後退が生じるだろうと予測している』彼は説明している。ただ勿論、産地国での天候の決定的な変化等の予測不能の出来事で変わる可能性はあるが、と付け加えている。

7 月の NY ICE カカオ先物価格は 5 月 3 日に 4 カ月半ぶりの高値水準である \$2,437/トンに達し、2 か月前のそれまでの 9 カ月最低水準の \$2,034/トンから 20% の上昇となっている。
市場価格は先週の最高値の頭を打って今週火曜日には 0.2% 下落して \$2,396/トンになった。

弱気筋でさえもいくつかの値上がりの要素を見ることは出来る。

- ・ミッドクロップに対して高めの生産者からの最低買付け価格を設定したコートジ産カカオ豆の供給が夏の頃の供給が制限されそうであること
- ・コートジで乾燥した天候がカカオ豆の品質に損害を与える危険性があること
- ・コートジとガーナの両国で既に収穫予測量の多くの割合の販売が終了してそうな状況であること

いくつかの議論の中では、ファンダメンタルズ要素（収穫量や、天候の動き等、実際のカカオの環境に関する情報）は 200 日移動平均の価格を今年初めて突破し、フィボナッチリトレースメント（相場を分析するテクニカル手法の 1 つで、相場のトレンドの力強さを見る指標とされている）が 50% を超えて上昇している等テクニカルな上昇を単に正当化しているだけであるという論調もある。

『我々実需のトレーダーとしては、現在の買いは全てテクニカル要素のものだと考えており、実需側の要素ではないと考えている。我々は市場価格の上値は \$2,300-\$2,250 付近であると考えており、そのレンジでの取引を期待している』とあるカカオトレーダーは述べている。

今週の特集) オラム社が日本のサンヨー食品とナイジェリアで即席めん製造販売の合弁事業

農産品商社のオラム・インターナショナル シンガポール株式市場で一時2.8%高の1.82シンガポールドルと、昨年11月以来の高値をつけた。出来高は約880万株となり、過去30日の1日当たり平均と並んでいる。この背景にはオラム社が、ナイジェリアで日本のサンヨー食品との合弁企業を設立することで合意し、同国やサハラ以南のアフリカで即席めんを製造・販売することを発表したことも好材料と受け入れられている。

○この合弁企業の設立について個人的な所感

オラム社の発表したこの合弁事業にかんするプレスリリースを読んでもみると、麺のサンヨー食品は、オラム社傘下のナイジェリア小麦粉会社のインスタント麺部門に出資している。

サンヨー食品は20億円で25%持分を取得したと報告されている。出資受入後の企業価値が80億円ということになるが、現在のこのインスタント麺部門の売上は24億円しかないと報告されている。

実に、売上高の3倍以上の倍率のバリュエーション（企業価値評価）で出資したことになる。

言うなれば、オラム社は丸儲け。サンヨー食品はよほどナイジェリア及びサブサハラでのインスタント麺の事業に高い成長性と収益性を期待しているということになる。

それにしてもハイテク企業並みの企業評価で評価が高すぎると感じるが、それだけ、自社独自でアフリカの様な（得に運営が難しいナイジェリア）市場で足がかりを作り、事業を立ち上げることが難しいと思われているということになるのだろうと推測できる。

ただ、日本企業がアフリカ市場にどんどん進出していくことは非常に喜ばしく嬉しい事ではあるので、日本人として応援していきたいと感じています。

***特徴的なチョコレートを毎週ひとつ取り上げて紹介する『今週のチョコレート』を別添にて毎週配信しております！！こちらも何卒、ご愛読頂きますようお願い申し上げます。**

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5783-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp